

FEATURE

和太鼓と朝鮮舞踊の融合 “One Universe”

和太鼓奏者 千代園剛（ちよぞの・たけし）さんと、朝鮮舞踊家 金英琴（キム・ヨングム）さんが結成したOne Universeはピース・デザイン・フォーラムの趣旨に賛同し、日韓そして世界平和への願いを込めて日韓のコラボ・パフォーマンスを披露してくださっています。



EVENT

第10回 ピースデザインフォーラム

2025年2月22日（土）、江東区のティアラこうとう（小ホール）にて「第10回ピース・デザイン・フォーラム」が開催され、One Universeの演舞で幕を開けました。

■五味洋治氏（フリージャーナリスト）



現在の国際情勢について、ウクライナ戦争や北東アジアの緊張を中心に講演。トランプ氏とプーチン氏がゼレンスキー氏抜きで停戦交渉を進める可能性がある中、戦争の終わらせ方によ

ては禍根を残す恐れがあり、朝鮮戦争も「現状維持」で終わったことで、今も対立が続いていることを指摘しました。また、北朝鮮兵士がロシア戦線に派遣され、最新兵器の戦場で戦っている実態を紹介。彼らの多くはスマホを持ち情報を得ており、停戦後も帰国せず戦災復興に利用される可能性があるとして指摘。韓日米 vs. 北中露という新冷戦構造が形成され、軍事的緊張が高まることも懸念されます。最悪のシナリオとして、米国が北朝鮮の核保有を認め、日韓でも核議論が浮上する可能性があるとして警鐘を鳴らしました。その中で、**私たちが積極的に平和を構築する姿勢の重要性**が強調されました。

■姜英之氏（東アジア総合研究所 理事長）



日韓関係の根本的な問題と改善の方向性について語られました。1998年の日韓パートナーシップ宣言では「未来志向」が掲げられましたが、**歴史と真摯に向き合う**

姿勢が欠けていると指摘。ユン大統領の関係改善の試みも、政権交代で後退する可能性があります。また、日韓

の歴史認識の違いとして、1910年の日韓併合条約を1965年の日韓基本条約で「もはや無効」としたことが、日本では「今となっては無効」、韓国では「そもそも無効」と解釈されたことに触れました。この認識のズレが、謝罪に関する意識の違いにもつながっています。歴史を乗り越えるためには、「**未来志向**」を単なるスローガンではなく、**共通の価値のために協力する実践として捉える**ことが必要であると提言。覇権主義に対抗し、自由や人権といった価値を基盤に、統一された朝鮮半島と日本が協力して東アジアの平和と繁栄を築く未来を描くことの重要性が語られました。

■後藤亜也氏（GPF Japan代表理事）



後藤氏は北東アジアの平和構築に向けた、明確なビジョンを示しました。それが朝鮮民族に古くから伝わる「**弘益人間**」（広く人間世界に益をもたらす、という意味）という建国精神を通して、**朝鮮半島を平和統一する道**です。現在、北朝鮮では悲惨な人権状況が続いています。しかし韓国でも伝統的家族観の崩壊と出生率低下、格差拡大やストレス社会などがあり、抜本的改革の必要性が指摘されています。弘益人間のビジョンを中心に平和統一することで新たな国家を建設し、南北が抱える問題を解決すると共に、冷戦の残滓を取り除いて世界平和への道筋を開くこと。このようなビジョンを「**コリアン・ドリーム**」と呼び、現在、韓国で草の根の市民運動が展開され、1000団体以上が運動に加わっています。そうした中、昨年8月にはキャンペーデービッドで**日韓米首脳が「自由で統一された朝鮮半島を支持する」と初めて宣言**しました。また、統一コリアが実現された場合の日本が受ける恩恵として経済効果や安全保障リスクの低減などを挙げ、日本が統一をサポートすることで、将来の統一コリアと日本との関係は非常に良いものになると説明しました。

NOTICE

4月12日（土） Japan Young Leaders Assembly開催

あなたの声で未来を変える第一歩に！国際問題や人権問題について志高い仲間と一緒に意見交換しましょう

■日時：2025年4月12日（土）

■アクセス：

■会場：プラザ平成 国際交流会議場 ゆりかもめ 東京国際クルーズターミナル 東口 徒歩3分

■参加費：無料

りんかい線 東京レポート B出口 徒歩15分



申込みフォーム

今回のオピニオンは、2月22日に江東区で行われた第10回ピース・デザイン・フォーラムのパネルディスカッションの内容を抜粋して掲載します。

今後の日韓関係をよりポジティブに展開していくために

質問：今年には戦後80周年、日韓国交正常化60周年ですが、今後の日韓関係をよりポジティブに展開していくために、必要なことは何でしょうか？

五味：私は歴史問題を忘れてはならないと思います。日本は謝罪をしたこともあります、「足を踏んだ人は踏まれた人の気持ちはわからない」という言葉もあります。そしてお互いに友達を一人でも増やして、双方を訪問する機会を増やすことが重要ではないでしょうか。

姜英之：お互いを市民同士、正しく理解することが必要で、誤解があっては仲良くなれません。特に「韓国は反日国家である」というのは最も大きな誤解です。歴史教育の影響はあるものの、それだけでなく、韓国人は日本の個別の人間をしっかり見ているのです（韓国に尽くした李方子妃、田内千鶴子、浅川巧の例）。一方で私は（在日）韓国人ですが、韓国人にも注文をつけたと思います。韓国でも「親日派＝裏切り者」と見做した歴史があり、今でもそういう風潮があります。このレッテル貼りを無くさないといけないですね。

後藤：かつて日本は韓国と関わっていくときに、アイデンティティの葛藤の真っ只中にありました。自分達の（日本人という）アイデンティティは正しいと思っていたので、相手の言語や宗教を変えてあげることで、仲間にしてあげることは良いことだと、本当に思っていたのですが、手痛いしっぺ返しを受けました。日本はアイデンティティを変えられた歴史がないので、今でもその気持ちがなかなか分からないですが、まずは知らないといけません。ただ、日本と朝鮮半島は本当に歴史を共にしてきました。姜先生もお話された李方子妃のお墓は、日本の鳥居に本当によく似ています。また、朝鮮の王族の墓からは新潟の糸魚川でしか採れなかったはずの勾玉が出てきています。深い交流があった証拠です。そういう事実を理解することが大切です。そしてやはり韓国人の友達を作ることが一番の平和構築です。



第二次トランプ政権にかける期待

質問：第二次トランプ政権がスタートして、変化のスピードに驚かされます。特に朝鮮半島問題に関してトランプ政権に期待できることは何でしょうか？

五味：私は実はトランプ政権に期待しています。トランプさんの取引や行動力がプラスに働くかも知れません。第一次トランプ政権の時に北朝鮮の核を認める形での取引をしようとしたトランプさんに安倍さんが助言することで、厳しい対応をするようになったということがあったようです。今回は北朝鮮が統一を放棄したのに対して、統一政策の見直しを

するように伝えてもらうよう、特に韓国から働きかける必要があるかと思っています。

姜英之：私も非常に期待しています。2018年6月、シンガポールで金正恩と会談した際、トランプさんは、核を放棄することで、北朝鮮が暗闇の世界ではなく、どれほど豊かになるかというビジョンを見せました。トランプさんがウクライナのレアアースに目をつけて交渉を持ちかけましたが、ゼレンスキーさんは断ったと言われています。実は北朝鮮にもレアアースが大量にあって、世界一あるとも言われています。トランプさんが北朝鮮に対して、これ以上の核開発をストップすることと、レアアースの権利と引き換えに、多額の経済支援をし、北朝鮮を市場経済開放の方向に持っていける可能性もあります。

後藤：シリアのアサド政権が崩壊し、アサドはロシアに亡命しました。これを金正恩はよく見ています。アメリカが北朝鮮をこうすると決めたら、独裁体制というのは一気に崩壊する可能性があります。ですからトランプさんが決めたら一気に変わるかも知れません。金正恩氏がもしも朝鮮半島平和統一の立役者になれば、命を保証してあげられるだけでなく、メンツも立てさせてあげることになります。勝者と敗者ではなく、南北共にWin-Winになるのです。そのような面で私も期待できていると思っています。